



チエリー・カザボン名誉教授

チエリー・カザボン名誉教授 年譜・著作目録

〈年 譜〉

- 1972年9月 パリ第7大学（ジュシユ）人文科学部（地理学及び歴史学専攻）卒業
1972年10月 クレディ・アグリコル銀行パリ本店勤務（1974年9月まで）
1974年10月 パリ第1大学（パンテオン＝ソルボンヌ）大学院人文科学研究科修士課程修了（地理学修士）
1974年10月 エックス＝マルセイユ第2大学地理学高等教育一級教授資格準備課程修了
1975年7月 クレディ・リヨネ銀行パリ支店勤務（1977年3月まで）
1977年4月 名古屋商科大学外国語学部専任講師
1991年4月 名古屋商科大学外国語学部助教授（1996年3月まで）
1996年4月 南山大学仏語仏文学科、金城学院大学文学部非常勤講師（フランス語担当）（1997年3月まで）
1997年4月 金城学院大学及び同短大、椋山女学園大学及び同短大非常勤講師（フランス語担当）（2000年3月まで）
1998年9月 名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科非常勤講師（フランス語担当）（1999年8月まで）
1999年9月 名古屋外国語大学外国語学部フランス語学科教授（2010年3月まで）
2010年4月 名古屋外国語大学名誉教授

◇所属学会

- 1999年9月 日本フランス語フランス文学会会員、日本フランス語教育学会会員

〈著作目録〉

◇著書

『Un, deux, trois... quatre ? 初歩のフランス語 ―フランス語を初めて習う人のための30課―』（60分 オーディオカセット6本付き）名古屋商科大学外国語センター
1984年5月刊

◇論文

1. Conflict and cooperation among the ethnic communities of New Caledonia: from Cook's discovery to the beginning of the French period 『名古屋商科大学論集』 第27巻 第1号
1982年10月

2. New Caledonia under French rule from the annexation until the end of the insurrection (1853-1879) 『名古屋商科大学論集』 第28卷 第2号 1984年3月
3. New Caledonia from the end of the Kanak insurrection (1879) until the end of governor Feillet's term (1903) 『名古屋商科大学論集』 第29卷 第1号 1984年9月
4. Les immigrants japonais en Nouvelle-Calédonie (1892-1976) 『名古屋商科大学論集』 第29卷 第2号 1985年3月
5. Les immigrants indochinois en Nouvelle-Calédonie 『名古屋商科大学論集』 第30卷 第1号 1985年11月
6. Evolution récente de la population de la Nouvelle-Calédonie 『名古屋商科大学論集』 第31卷 第1号 1986年9月
7. Enseignement et emploi en Nouvelle-Calédonie 『名古屋商科大学論集』 第31卷 第2号 1987年3月
8. A French-English glossary for the translation of trade documents 『名古屋商科大学論集』 第32卷 第1号 1987年9月
9. The circumstances and motives for the colonial expansion of Europe (1870-1914) 『名古屋商科大学論集』 第33卷 第1号 1988年9月
10. Les Français et la décolonisation (1944-1967) : méconnaissance des faits et problèmes coloniaux 『名古屋商科大学論集』 第33卷 第2号 1989年3月
11. Décolonisation : la remise en cause du fait colonial 『名古屋商科大学論集』 第34卷 第1号 1989年9月
12. Décolonisation : l'administration des colonies 『名古屋商科大学論集』 第34卷 第2号 1990年3月
13. L'opinion publique en France et le démantèlement de l'Empire colonial : la guerre d'Indochine (1946-1954) 『名古屋商科大学論集』 第35卷 第1号 1990年9月
14. L'opinion publique en France : la guerre d'Algérie (1954-1962) 『名古屋商科大学論集』 第35卷 第2号 1991年3月
15. Les héros de Malraux ou comment choisir son destin en ce siècle : prise de conscience et engagement 『名古屋商科大学論集』 第36卷 第1号 1991年9月
16. Les héros de Malraux : l'aventure révolutionnaire comme action privilégiée 『名古屋商科大学論集』 第36卷 第2号 1992年3月
17. Les héros de Malraux : les protagonistes, le Parti, l'Internationale et la révolution 『名古屋商科大学論集』 第37卷 第1号 1992年9月
18. Le bilan de l'aventure révolutionnaire pour André Malraux et ses héros 『名古屋商科大学論集』 第38卷 第1号 1993年9月
19. Voyages et clichés racistes : *Un hiver à Majorque*, de George Sand 『名古屋商科大学論集』 第39卷 第1号 1994年10月
20. Pierre Loti à Nagasaki : « mes préjugés d'occident » 『名古屋商科大学論集』 第40卷 第2号 1996年3月
21. Une relecture de *Madame Chrysanthème* à la lumière de la biographie de Loti écrite par A. Buisine (1998) : première partie 『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 第21号 2001年2月

22. Une relecture de *Madame Chrysanthème* à la lumière de la biographie de Loti écrite par A. Buisine (1998) : deuxième partie 『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 第23号 2002年2月
23. Français Langue Etrangère : les articles partitifs – Le cas des apprenants japonais 『名古屋外国語大学外国語学部紀要』 第26号 2003年8月

献辞

チエリー・カザボン教授は1999年9月に本学に着任され、2010年3月31日に定年退職されました。最後のこの10年は、楽園であったとご本人も述べています。名誉教授の称号も授与されました。私は、以下で2点(人柄と業績)にしぼって先生について語り、率直に述べ、かつ人びとに良い思い出を持っていただけるように努めます。

先生は、まずフランス人らしい明晰さを身につけておられました。答えの出にくい問題に直面したとき、先ず疑わしいものは排除する。デカルトのごとく、「明晰かつ判明」に論を進められる点は学べました。名案と思えても失敗もあろう、しかしその時はやむを得ないとする姿勢も潔いものでした。特に、海外研修の立案、実施に際し、またフランス人の人事に関して、幾度となく良い助言を頂きました。

かつて、リセの先生からは「書類の整理」の大切さを学ばれたそうです。それを文字通り実施し、加齢からくる物忘れをカバーされていたふしがあります。人間の能力などそんなに差はない(?!)。探し物をして時間を費やし、あげくの果てには何を探していたのかもわからなくなる私にとって、良い教訓を残されました。

研究上の関心は、「熱帯地方の経済」だったようです。事実、セネガルからはじまり、マダガスカル、ニュー・カレドニアについて、執拗に調査と探索をしておられます。ニース近辺の鷲ノ巢村エズで、熱帯植物を見学中にサボテンに文字通り(食いつかれた)時には助けてもらい、蘊蓄を傾けた講義が聴けたのを私は思い出します。

研究の最後は、ピエール・ロティの研究、特に『お菊さん』の分析にいたります。明治18年に長崎に来てその後も何度か日本を訪れたこのフランス海軍士官の本に興味を持たれるのは至極当然です。しかし、100年前のこの作家は決して日本を愛していなかった、現実を見ていなかったこと

を、指摘されています。

FLE（外国語としてのフランス語）の分野でも興味ある小論（部分冠詞）があります。caféはいつでも duではなく、leも unもあることをフランス製の教科書の弱点を突きつつ指摘してくれました。学生にも勧められる論考です。カメラの名手の先生をこうした短文で、ピントのずれなく捉えられたか不安ですが、すでに紙幅の許す限界に来てしまいました。

2010年3月31日 フランス語学科長 熊沢一衛